

検 定 意 見 書

1 枚中 1 枚目

受理番号 29-39		学校 高等学校		教科 国語		種目 現代文A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	45	図	(写真のキャプション) ムシクイフィンチ キツツキフィンチ	表記が不統一である。 (本文に照らして表記が不統一である。)	3-(4)				
2	135	下15 -16	大人あるいはそれに近い年代から子供時代の夏を回想する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (作品の内容について誤解する。)	3-(3)				
3	251	表	(日本近現代文学史年表) 夢十夜	生徒にとって理解し難い表示である。 (凡例に照らして理解し難い表示である。)	3-(3)				
4	255	表	(日本近現代文学史年表) 二〇〇九 … 改定常用漢字表告示 二〇一〇 … 東日本大震災	誤記である。	3-(2)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 29-10		学校 高等学校		教科 国語		種目 古典A		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	表見返 4		藤原俊成は90歳……まで生きた。	不正確である。 (「90歳」)	3-(1)				
2	表見返 4		夫婦生活 平安時代は一夫多妻の通い婚が基本で、夫は往々にして複数の妻のもとに通い、やがて一人を正妻として自邸に迎えた。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (平安時代の婚姻形態について誤解する。)	3-(3)				
3	18	上14	景戒 (けいかい)	不統一である。 (238ページ「景戒 (きょうかい)」に照らして不統一である。)	3-(4)				
4	30	脚注4	4内の大臣 内大臣。補 ここでは、藤原伊周 (九七三—一〇一〇) をさす。	不統一である。 (106ページ脚注1「藤原伊周 (九七四—一〇一〇)」に照らして生年が不統一である。)	3-(4)				
5	39	7	▽やがて	誤記である。 (40ページ「▽重要古語」に掲出されていない。)	3-(2)				
6	61		平安時代の作り物語と歌物語の流れの中で、主人公光源氏の生涯を、多くの女性たちとの関わりとともに描いた『源氏物語』が、一人の宮中の女房の手によって生み出された。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「作り物語と歌物語の流れ」と源氏物語との関係が理解し難い。)	3-(3)				
7	80	囲み	△弘徽殿の女御	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (弘徽殿の女御が当該巻において故人であるかのように誤解する。)	3-(3)				
8	100	2 - 3	▽かしこく (101ページ1~2行目「▽あへ」も同)	誤記である。 (103ページ「▽重要古語」に掲出されていない。)	3-(2)				
9	154	上14 -15	①主として旅の体験や心情を綴った旅日記。……『とはずがたり』	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (『とはずがたり』の性格について誤解する。)	3-(3)				
10	198	上19	(古体詩に親しむ) 南北朝時代 (三七〇—五八八)	不統一である。 (237ページの「王朝名」の時代区分に照らして不統一である。)	3-(4)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 29-5		学校 高等学校		教科 国語	種目 古典B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	14	脚注2	五節 五人の舞姫による新嘗祭。大嘗祭の行事。	不正確である。 (「五人」「新嘗祭。」)	3-(1)	
2	35	表	(年表) 大鏡の位置	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (平忠度・平敦盛の没年、千載和歌集の成立について誤解する。)	3-(3)	
3	40	脚注1 4	「飽かなくに…」の歌…『古今和歌集』(雑)に、	不正確である。 (部立が不正確。)	3-(1)	
4	54	1 - 5	(時代や国が違っても) 『平家物語』という…無常観を描いた作品だと文学史で覚えている人も多いであろう。しかし、実際には『平家物語』には様々な人間ドラマがあり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「しかし」の前後の関係が理解し難い。)	3-(3)	
			登場する人物たちはその中で泣き、笑っている。			
5	54	23 - 25	(同) 時代も国も置かれた状況も異なるが、自分の生み出した作への強い執着心は共通していることが読み取れよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「時代も国も置かれた状況も異なる」が何をさしているのか、理解し難い。)	3-(3)	
6	77	17 - 20	(言語活動「ものづくし」) 「うつくしきもの」(第百四十五段)とは「かわいいもの」ということだ。この段には雀の子や幼子のかわいらしい様子の描写がある。昨今の「かわい	生徒にとって理解し難い表現である。 (「うつくしきもの」の段と「かわいい」ブームの関係が理解し難い。)	3-(3)	
			い」ブームにもつながる感じ方だ。			
7	102	脚注	藤原俊成女 (?一一二五四)。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (没年が確定しているかのように誤解する。)	3-(3)	
8	114	9	●井原西鶴…(211ページ参照)。	誤記である。 (「211ページ」。)	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 29-5		学校 高等学校		教科 国語	種目 古典B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
9	115	表	(年表) 古今和歌集・仮名序の位置	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (古今和歌集の成立について誤解する。)	3-(3)	
10	136	23	(ねえ、ねえ聞いた?) 説話集の中には、	誤記である。 (一字下げになっていない。)	3-(2)	
11	136	23 - 27	(同) 説話集の中には、編者の定かでないものもあるが、この「伴大納言応天門を焼く」の話は、ただ話を集めただけでは終わらず、末尾には、「いかに悔し	生徒にとって理解し難い表現である。 (一文全体の意味が理解し難い。)	3-(3)	
			かりけん。」(135・5)という伴大納言の心中を察した編者の感想が添えられている。			
12	146	8 - 11	(「めでたき」定子) 当時の定子は逆境にあった。…頼みとする兄の伊周や弟の隆家は道長の敵ではなかった。	生徒にとって理解し難い表現である。 (定子が逆境にあったことと道長がどうかかわるのか理解し難い。)	3-(3)	
13	149	脚注8	母後の宮 皇太后のことで、ここは醍醐天皇の母、藤原胤子(?-八九六)。宇多天皇の皇后。	生徒が誤解するおそれのある説明である。 (「皇后」とするのは、藤原胤子について誤解する。)	3-(3)	
14	154	13 - 15	学習②語り手(大宅世継)の感想が述べられている箇所を抜き出してみよう。そして作者はこの話の中で、どのような歴史的な意味を表そうとしているのか、話し合ってみよう。	生徒にとって理解し難い設問である。 (「歴史的な意味」とは何か、また設問の前半と後半の関係が理解し難い。)	3-(3)	
15	160	1 - 3	(「神璽・宝剣はお渡し申し上げてしまったのだ」) 文学史の本では「…」とされる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「文学史の本」とは何か、理解し難い。)	3-(3)	
16	163	絵	(キャプション) 蔀(166ページ4参照)	誤記である。 (「166ページ4」。)	3-(2)	
17	172	7	(二種類の用法を持つ敬語) 圧倒的に尊敬語が多い。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (尊敬語「たまふ」と謙譲語「たまふ」の使用頻度について誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 29-5		学校 高等学校		教科 国語	種目 古典B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
18	172	9 - 15	(同) 謙譲語「たまふ」の特徴 1補助動詞の用例がほとんど。…4命令形の用例はなく、終止形の用例もほとんどない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (謙譲語「たまふ」の特徴について誤解する。)	3-(3)	
19	184	脚注6	枕浮くばかりに …「ひとり宿の床にたまれる涙には石の枕も浮きぬべらなり」	誤記である。 (「宿」)	3-(2)	
20	192	1 - 8	(『源氏物語』の中の物の怪) 葵の上の手を取って話をしていたら「ただかの御息所なりけり。」(182・1)と相手が変わってしまっていた。物の怪の映像は現在ではCG(コンピュー	生徒にとって理解し難い表現である。 (コンピュータグラフィックスと筆致の妙の関係が理解し難い。)	3-(3)	
			タグラフィックス)ですぐできるであろう。千年前「その人にもあらず変はりたまへり。」と書いて読者にその場面を想像させる筆致の妙には感服せざるを得ない。			
21	224	31 - 33	(言葉の変遷) 上代には平安時代にすらあまり見られなくなった語がある一方、近世には現代に近い言葉が用いられるようになった。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「一方」の前後の関係が理解し難い。)	3-(3)	
22	236	4 - 7	(故事・小話について) 本単元で取り上げた故事・小話の最も新しいものでも、『世説新語』(紀元四〇〇年代前半)の文であり、最も古いものは『韓非子』(紀元前二〇〇年	生徒にとって理解し難い表現である。 (「二千年前」、「活字で読める」とは何を指すのか理解し難い。)	3-(3)	
			前後)の文である。今から二千年前の文が活字で読めることに驚嘆する。			
23	236	19 - 20	(同) 世説新語 三日書を読まざれば語言味わいなし、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (『世説新語』について誤解する。)	3-(3)	
24	246	29	(説について) 二度左遷され、その時に書かれた文が本文である。	生徒にとって理解し難い説明である。 (「その時」とはいつを指すのか理解し難い。)	3-(3)	
25	258	7	●王維 (六九九? - 七五九?)	不統一である。 (359ページ年表上段の没年に照らして不統一である。)	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 29-5		学校 高等学校		教科 国語	種目 古典B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
26	259	4	「李攀竜（はんりゅう）」の「竜」の読み	不統一である。 （359ページ年表下段の李攀竜（はんりゅう）の「竜」の読みを照らして不統一である。）	3-(4)	
27	260	1 - 2	（漢詩の基本） 古体詩…『詩経』から南北朝（359ページ参照）までの詩の総称。	生徒が誤解するおそれのある説明である。 （「南北朝」について誤解する。）	3-(3)	
28	260	33 - 37	（漢詩の鑑賞） 漢詩が日本に与えた影響は大きく、古くは万葉集の時代から明治の文豪、森（區+鳥）外・夏目漱石に至るまで、漢詩を作った知識人は多い。当然、中	生徒にとって理解し難い文章である。 （「当然」の前後の関係が理解し難い。）	3-(3)	
			国の知識人である官吏も漢詩の教養は必須で、唐代の科挙には漢詩の試験もあったそうだ。			
29	271	脚注1	『荀子』はその書名。	生徒にとって理解し難い表現である。 （「その書名」。）	3-(3)	
30	272	8	●孟軻（前三七二？-前二八九？）	不統一である。 （358ページ年表中段の没年に照らして不統一である。）	3-(4)	
31	288	2 - 3	（為政者と客人） 客人とは、自らの思想・戦術等をもって各国を廻り、認められればそこで為政者を補助する。	生徒にとって理解し難い文章である。 （文の係り受けが理解し難い。）	3-(3)	
32	288	6 - 9	（同） 荆軻も、燕の太子丹に手厚くもてなされる。弱小国燕の太子丹は、秦王政を暗殺するために刺客荆軻に白羽の矢を立てる。しかし、冷徹に思える荆軻も	生徒にとって理解し難い文章である。 （「しかし」の前後の関係が理解し難い。）	3-(3)	
			、「風蕭蕭」の詩を読むと人間味があふれていて胸を打たれる。			
33	312	15	（『源氏物語』桐壺巻と『長恨歌』） 「在地願為連理枝」の返り点	不正確である。 （返り点の付け方が不正確である。）	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 29-5		学校 高等学校		教科 国語	種目 古典B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
34	312	20 - 23	(同) ただ、『長恨歌』は漢皇が楊貴妃の魂と会って詩が完結するが、『源氏物語』は桐壺更衣の死から物語が始まり、光源氏の次世代の薫大将まで発展する	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (『長恨歌』と『源氏物語』の関係について誤解する。)	3-(3)	
			。これは、紫式部の創作力のなせる業なのだろう。			
35	324	1 - 2	(老荘と韓非子) 老子・莊子二人の名から老荘思想といわれ、道家とされる。	生徒にとって理解し難い文章である。 (主語が示されておらず理解し難い。)	3-(3)	
36	324	29 - 33	(大伴旅人と老荘思想) その中には、老荘思想の影響を強く受けた「竹林の七賢」に関する歌もあり、旅人もまた現実を逃避したく思い、老荘思想に影響を受けていた。奈良時	生徒にとって理解し難い表現である。 (「老荘思想」が重複し、文意が理解し難い。)	3-(3)	
			代初期に生きた旅人にも、老荘の思想は伝わっていたのだ。			
37	336	7	(②不可能) 従者病、莫能興。	生徒にとって理解し難い説明である。 (「不可能」の句形の例として理解し難い。)	3-(3)	
38	339	9	(4 使役形の②) 遣ハシテ将ヲ守関ヲ者、	不正確である。 (送り仮名が不正確。)	3-(1)	
39	349	表	(四◎古語助動詞活用表) 奈良時代特有の助動詞「す」「ふ」 (意味) 尊敬 反復・継続 (接続) 四段動詞の未然形	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「す」「ふ」の意味、接続について誤解する。)	3-(3)	
40	351	表	(五◎古語助詞一覧表) 終助詞「か」「かな」「かも」 (接続) 連体形	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「か」「かな」「かも」の接続について誤解する。)	3-(3)	
41	353	表	(六◎日本古典文学関係年表) 3段目 後撰和歌集(源順ら) 五一	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (成立年時が確定しているかのように誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 29-5		学校 高等学校		教科 国語	種目 古典B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
42	353	表	(同) 3 段目 源順 (みなもとのしたかう)	誤記である。 (「したかう」。)	3-(2)	
43	353	表	(同) 3 段目 金葉和歌集 (源俊頼) 二七	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (成立年時が確定しているかのように誤解する。)	3-(3)	
44	354	表	(同) 3 段目 山家集 (西行) 九〇	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (成立年時が確定しているかのように誤解する。)	3-(3)	
45	354	表	(同) 4 段目 鴨長明、源実朝、慈円、後鳥羽院、藤原定家	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (没年について誤解する。)	3-(3)	
46	355	表	(同) 4 段目 兼好法師、北畠親房	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (没年について誤解する。)	3-(3)	
47	355	表	(同) 3 段目 正徹物語 (正徹) 三〇	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (成立年時が確定しているかのように誤解する。)	3-(3)	
48	355	表	(同) 3 段目 新撰菟玖波集 (宗祇)	不正確である。 (『新撰菟玖波集』は宗祇一人の撰ではない。)	3-(1)	
49	356	表	(同) 4 段目 近松門左衛門	生徒が誤解するおそれのある表示である。 (没年について誤解する。)	3-(3)	
50	363 裏見返	表	(一年〈月の異名と主な年中行事〉) 冬 五節…大嘗祭・新嘗祭の際に行われる四人の舞姫による舞の行事の総称。	不正確である。 (「四人」。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。